

令和4年12月5日
関東森林管理局
群馬森林管理署

小型バイオマス熱電併給設備の視察会を行います。
～ぐんまフォレスター連絡会技術交流会の開催について～

建築用材として利用されていない細い幹など（木質バイオマス）を燃やして、熱エネルギーと電気エネルギーへ変換する施設を視察し、木質バイオマス利用のあり方について意見交換します。

1 概要

群馬県内の3つの森林管理署、関東森林管理局と群馬県は、群馬県フォレスター等民国連携推進連絡会（ぐんまフォレスター連絡会）を結成し、県内の森林総合監理士等の林業技術者相互の技術向上を図るほか市町村の森林・林業行政を支援しています。

木質バイオマスによる発電という再生可能エネルギーの利用促進は、カーボンニュートラルの実現に重要な役割を果たすものです。今後のバイオマス利用のあり方としてエネルギー変換効率の高い熱電併給が、また、地域内エコシステムとしての小型設備が求められています（別紙参照）。

この度、ぐんまフォレスター連絡会の関係者や市町村職員、林業事業者を対象に、小型バイオマス熱電併給設備を視察し、小型バイオマス熱電併給の今後のあり方について意見交換を行います。

2 開催日時・場所

令和4年12月8日（木）10時00分～12時00分、13時00分～15時00分
（新型コロナウイルス感染症として午前と午後の2部制で行います。）

フォレストエナジー渋川バイオマス研究所（群馬県渋川市上白井1787）（別紙位置図）

3 開催内容

- （1）小型バイオマス熱電併給設備の見学
- （2）小型バイオマス熱電併給の今後のあり方についての意見交換

4 参加者等

- （1）参加予定者
関東農政局、群馬県、群馬県内市町村（福祉部局を含む）、群馬県内林業事業者ほか約100名
- （2）協力事業者
フォレストエナジー株式会社

5 主催：群馬森林管理署、共催：ぐんまフォレスター連絡会

6 取材申込方法

取材を希望される方は、12月7日（水）までに下記担当までご連絡願います。

7 その他

- （1）新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、感染予防と流行拡大防止のため中止あるいは開催規模を縮小する場合があります。
- （2）発熱等の症状のある方の参加はご遠慮ください。また、感染防止のためマスクの着用、十分な間隔の確保にご協力ください。



問い合わせ先

林野庁 関東森林管理局 群馬森林管署

担当者：松井、高橋

ダイヤルイン：027-210-1203 F A X 番号：027-210-1248

- 木質バイオマスに係るFITについては、一定の要件を付した上で、令和4年度以降も継続する予定。
- FITをめぐる情勢や課題等を踏まえ、農林水産省と経済産業省は「林業・木質バイオマス発電の成長産業化に向けた研究会」を設置し、課題等の解決に向けた方策を検討。令和2年10月に報告書を取りまとめ。

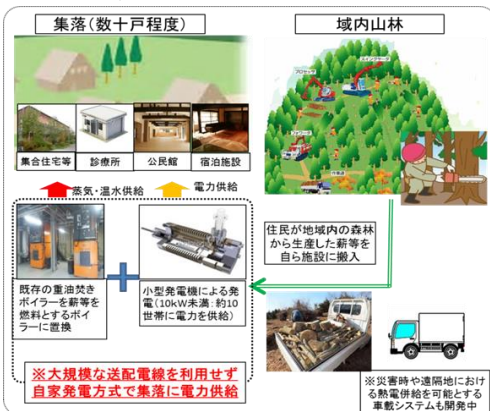
■ FIT制度の今後の方向性

- 木質バイオマス発電に係る固定価格買取期間は、稼働後20年間。
 - FIT認定に際し、令和4年度より、1万kW未満の木質バイオマス発電は、「地域一体型要件」を設定。
- ※ 認定に際し、ライフサイクルGHG排出量を考慮することが検討されており、今後の木質バイオマス発電に係るFIT認定に影響を与える可能性。

- <地域一体型要件> = ①～③のいずれか (今後更に検討)
- 災害時に再エネ発電設備で発電された電気を活用することを、自治体の防災計画等に位置付け
 - 災害時に再エネ発電設備で産出された熱を活用することを、自治体の防災計画等に位置付け
 - 自治体が自ら事業を実施するもの、又は自治体が事業に直接出資するもの

■ 「地域内エコシステム」による熱利用の推進

<地域内エコシステムのイメージ>



- 集落や市町村レベルで、関係者の連携の下、熱利用又は熱電併給による小規模な木質バイオマスエネルギー利用を推進する「地域内エコシステム」の構築に向けた取組を、経済産業省との連携により推進。

■ 持続的な木質バイオマス利用に向けた取組方向

「林業・木質バイオマス発電の成長産業化に向けた研究会」における主な論点

- 発電コストの7割を占める燃料コストの低減と林業者の経営安定化の両立
- 木材の運搬・加工システムのエネルギー利用向けの最適化や広葉樹や早生樹の利活用
- 燃料材需要の高まりを背景とした、伐採跡地の放置や既存の木材利用との競合に係る懸念への対応
- 木質バイオマス需要側等による地域の森林資源の持続的な利用に向けた取組
- 木質バイオマスの熱利用・熱電併給の推進 等

今後の取組方向

未利用木材のフル活用

- 架線等を活用した全木集材や移動式チップパーを活用した山土場・中間土場でのチップングにより、未利用木材を効率的に収集・運搬。



燃料材用途として有望な早生樹等の実証

- 15～20年で燃料用チップ用材として利用可能な早生樹や、人手が入らなくなっている旧薪炭林の広葉樹について、燃料利用の可能性を検討。



コウヨウザンスギの約2倍の成長量。切り株から萌芽更新。

FITの事業計画認定における確認強化等

- 地域の森林資源や再造林実施等の状況、他の木材産業への影響等を踏まえた事業計画の事前・変更確認を推進。
- 燃料材の合法性確認を推進。



熱・建材・新素材等への利用推進

- 「地域内エコシステム」の構築により、地域における熱利用・熱電併給を推進。
- パーティクルボード等の木質系建材や改質リグニン等の新たな木質系素材への利用を推進。



会場位置図

フォレストエネルギー渋川バイオマス研究所
(群馬県渋川市上白井1787番)

